

壁高欄補修工の作業手順

項 目	内 容	留 意 事 項
準 備 工	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容の確認 作業人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検 	<ul style="list-style-type: none"> 指示書の内容確認 安全打合せ書による。 作業別安全チェックシートの活用。
はつり工	<ul style="list-style-type: none"> 壁高欄全体を打音点検を行い、不良個所にマーキングをする。 ハンマードリル、チップパーを使用しコンクリートのはくりひび割れ等の発生部分を除去する。またその他の全面については、サンダーにてけれんを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> はつりがらが本線または、橋梁下へ落下しない様に十分注意する。 防塵マスク、保護メガネ、耳栓を使用する。 サンダー使用時は、キックバックに注意する。
防錆処理工	<ul style="list-style-type: none"> はつりが終わり鉄筋が露出したら、ワイヤーブラシ、サンダーを使用し鉄筋に付着している、錆を除去する。その後防錆塗料の塗布を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 刷毛にて十分な量を塗布する。
断面修復工	<ul style="list-style-type: none"> 欠損断面を断面修復材を使って元の断面まで埋め戻し復旧を行う。 この時、施行箇所以外の場所は、きちんとマスキング養生を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 厚みが厚い場合には2～3回に分けて復旧を行う。
下地処理工	<ul style="list-style-type: none"> 断面修復が完了した後、プライマー、不陸調整材の塗布を刷毛で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 均一な量をなるべく薄く塗布する。
主 剤 工	<ul style="list-style-type: none"> 中塗り材を均一にゴム鏝にて塗布を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ある程度の厚みが必要となって来るので熟練した技術が必要になる。
仕上げ工	<ul style="list-style-type: none"> 仕上げ材を、均一に、刷毛、ローラーにて2回塗布を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 刷毛むらの出ないようになるべく均一に塗布する。
後片付け	<ul style="list-style-type: none"> 完成後マスキング等の養生の撤去を行い、足場等も清掃する。 使用した道具、機材、余った材料はどは、トラックに積み込み、最後にほうき等で、清掃を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 使用した道具等は、現場に忘れ物が無いように確認する。

作業編成(標準)	機材	資材	安全器具・保護具	
			ヘルメット	
			反射(自発光)チョッキ	
			警笛	
			粉塵マスク	
			保護メガネ	
			耳栓	

※現場で作業手順を変更する場合は作業を中止し、作業責任者からメンテ名古屋担当者に報告・相談する。

■注意事項(共通の指導事項)

- 各作業にあった保護具を使用する。
- はつり、清掃時、の小石等の一般車への飛散には、十分注意を行う。
- 施工箇所によっては、安全帯を使用する。
- 橋梁下への、はつりかす、塗料の落下には、十分注意をする。
- 材料の攪拌については、硬化不良が起きないように、十分、むらなく攪拌する。
- 材料の攪拌場所は、路面が汚れない様にシート等で養生をしてから作業をする。
- 手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 8.一人作業の禁止**